

鹿児島大学

【N080 鹿児島大学】

	鹿児島大学 農学分野
学部等の教育研究 組織の名称	農学部（第1年次:205） 水産学部（第1年次:140） 共同獣医学部（第1年次:30） 大学院農学研究科（M:69） 大学院水産学研究科（M:32） 大学院連合農学研究科（D:23）
沿 革	明治41（1908）年 鹿児島高等農林学校設置 昭和14（1939）年 鹿児島高等農林学校に獣医学科設置 昭和19（1944）年 鹿児島農林専門学校と改称 昭和21（1946）年 国立鹿児島水産専門学校設置 昭和24（1949）年 鹿児島大学農学部及び鹿児島大学水産学部設置 昭和41（1966）年 大学院農学研究科修士課程設置 昭和44（1969）年 大学院水産学研究科修士課程設置 昭和63（1988）年 鹿児島大学大学院連合農学研究科設置 平成24（2012）年 農学部獣医学科を廃止、共同獣医学部設置
設置目的等	<p>明治41年、鹿児島高等農林学校が、九州の暖地農業及び熱帯植物の栽培利用法の研究、南方農林業の開発・経営、及び海外移民などの人材育成を目的として設置された。</p> <p>昭和14年、鹿児島高等農林学校獣医学科が、獣医師及び畜産技術者の養成を目的として設置された。</p> <p>昭和19年、鹿児島高等農林学校は、鹿児島農林専門学校と改称した。</p> <p>昭和21年、国立鹿児島水産専門学校が、南海における水産資源の研究と漁業技術の前進・発展を目的として設置された。</p> <p>昭和24年、鹿児島農林専門学校は鹿児島大学農学部、国立鹿児島水産専門学校は鹿児島大学水産学部に承継された。</p> <p>昭和41年、農学分野の変化に対応できる創造性豊かな研究者養成の道を開くとともに、多様な目的に適応できる高度な専門知識と能力を持つ技術者の養成を目的に、農学研究科修士課程を設置した。</p> <p>昭和44年、学術の理論及び応用の深奥を究めて文化の進展と水産業の発展に寄与することを目的に、水産学研究科修士課程を設置した。</p> <p>昭和50年、水産学部は、資源づくりや海洋環境問題等新たな分野も含めた研究、教育体制確立を目的として、3学科を統合して水産学科に改組した。</p>

	<p>昭和63年、食料・健康・環境に関わる高度な専門知識と学識を備え、新しい農水産業の創成に対して、国際的な視野で先駆的なリーダーとして活躍できる人材を養成し、農学の進歩と農水産業及び地域の発展に寄与することを目的に、鹿児島大学農学研究科、同水産学研究科、佐賀大学農学研究科及び宮崎大学農学研究科と共に、鹿児島大学大学院連合農学研究科を設置した。</p> <p>平成2年、農学部は、社会情勢の変化や学問技術の進歩を背景に、広い視野と高度な専門知識をもった有能な人材を養成し、農学の進歩発展に寄与するために、教育コースを見直した。</p> <p>また、獣医学科は、専門性の高い知識・技能を持つ研究者・技術者を育成し、教育研究を通じて地域・国際社会に貢献するため、山口大学大学院連合獣医学研究科の構成研究科となった。</p> <p>平成4年、大学院連合農学研究科は、琉球大学農学研究科の参加に伴い、4大学5研究科で構成され、熱帯・亜熱帯農学分野が強化された。</p> <p>平成9年、農学部は、フィールドでの教育を重視し、豊かな人間性、現場での実践力、優れた応用力、広い視野と国際性を持った、農林業、食品産業等、食住農関連分野の技術者、地域指導者の養成を目的として、獣医学科を除く3学科の内容の再変更を行った。</p> <p>平成19年、水産学部は、鹿児島から東南アジア・南太平洋を含む水圏をフィールドとして、水産資源の持続的生産とその合理的利用、水圏環境の保全分野で、高度な教育を受けた技術者を社会に送り出し、熱帯・亜熱帯水域を対象とする諸活動で世界をリードし、地域社会と国際社会に貢献できる、世界的水準の水産高等教育機関を目指し、教育分野を見直し教員組織を変更した。</p> <p>平成21年、連合農学研究科は、農林水産分野の課題探求と解決に至る研究を自立的に遂行できる能力を具備した研究者・技術者・教育者として、地域社会から国際社会まで幅広く活躍できる能力とリーダーシップを持つ人材の養成を目指し改組した。</p> <p>平成24年、国際水準の獣医学教育を体系的に創出・実践し、深い知識と高度な技術を備えた、地球国際社会を俯瞰できる優れた獣医師を輩出することを目的に、山口大学と共同教育課程を編成・実施する共同獣医学部を設置した。</p>
<p>強みや特色、社会的な役割</p>	<p>アジア・南太平洋の諸地域に開かれた豊かな自然環境に恵まれた地にあり、農・水産・獣医学という農学系学部・大学院を全国でも有数の規模で有する大学として、1世紀にわたる歴史を持つ。食料の安全保障、生物資源と環境保全及び生命科学に関する高度な教育・研究並びに社会・国際貢献を実践する南日本の拠点大学を目指しており、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p>

- 日本学生支援機構等の支援による学生海外研修支援事業、拠点大学交流等を基にした学生海外研修や、獣医系4大学群連携事業等の実績を生かした世界水準の教育を展開することで、農林水産業、食品産業、獣医療の分野の専門的知識・技術を修得し、豊かな世界観と倫理観を備え、グローバル化社会に貢献できる人材を育成する。上記に加えて、修士課程は、農学分野の米国ジョージア大学との連携教育プログラムや水産学分野のアジア4大学による国際連携プログラムの開設等の大胆な改革を進め、グローバル人材や高度職業人材育成の役割を果たす。博士課程では、国際誌に質の高い論文を投稿してきた実績等を発展させ、創造的な開発能力を持つ研究者、教育者の育成の役割を果たす。
- 連合大学院・共同学部・連携大学院等の他大学等との連携による教育の質向上への取り組み、及び附属施設の共同利用拠点化等による国内外での現場実習教育による実践的フィールド対応能力を涵養する教育を展開してきた。これらの実績を生かし、学术交流協定の推進、国際連携による教育プログラムの編成、留学生の確保、学生の海外研修や英語による教育等を推進することでグローバル化教育を進め、国際認証取得等を利用し国際的通用性を持った人材を輩出する。
- 本学の重点研究課題「島嶼、環境、食と健康、水、エネルギー」を基本とし、農畜水産物の安全安定供給や利用加工、特殊土壌及び災害からの国土保全、赤潮、畜産防疫等の地域課題、及び地球的課題である温暖化や沿岸環境への負荷の増大への対策、獣医療の高度化、越境性動物疾病の制御等に関する研究の実績を生かし、幅広い農学系分野を持つ強みを生かし、分野横断的にかつ国際的に通用する高いレベルの研究を推進する。
- 日本学術会議九州・沖縄地区学術講演会、鹿児島県水産技術開発センターとの継続的協力、家畜疾病診断研究会等の実績を生かし、国や南九州の地方公共団体及び関連産業界に高度な技術と情報を提供することで産学官連携の核となり、鹿児島大学焼酎学シンポジウム等の地域や市民向け公開講座やシンポジウムの実績を生かし、知の拠点として地域社会に貢献する。また、国際機関や国際協力機構等と連携した国際研修やODA事業への参画等や留学生教育の実績を発展させ、国際社会への貢献を更に推進する。

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">○ 履修証明課程「高度林業技術者養成プログラム」、「焼酎マイスター養成コース」、「海外水産指導者養成プログラム」及び放送大学「鹿児島湾洋上実習」や、「獣医療に関する再教育研修」、「社会人大学院再チャレンジ入学」等の実績を生かし、社会人の学び直しの機会を更に充実する。
○ ISO9001を利用した教育品質保証、寄付講座の受け入れ、連携大学院の形成等の実績も生かし、組織の活性化を進めることで、自主自律と進取の精神を有する人材育成を実現する。 |
|--|---|